

高木復興大臣

東北観光アドバイザー会議終了後会見録

(平成28年2月14日(日) 17:17～17:24 於) 宮城県南三陸町)

1. 発言要旨

本日は東北六県の観光部局の方々や東北運輸局、あるいは東北地方整備局の方にもお越しをいただきまして、今後取り組みたいと考えている内容について発表していただくとともに、東北アドバイザー会議の委員の方々との意見交換をしていただきました。

具体的には、まず東北六県で、東北六県や東北運輸局、地方整備局から一つには広域観光周遊ルートの確立、東北のブランド化、プロモーションなど、東北全体での取組が必要であること。仙台空港・新幹線・クルーズ船や、二次交通としてバスなどでありますけれども、そういったもの。陸路・鉄路・空路・海路を組み合わせた東北の広域交通の充実を図ること。それから、教育旅行・農家民泊・雪の活用など、地域資源を生かした観光を推進していることなどの御報告がありました。

委員からは、外国人観光客にはまず来ていただくことが重要だということ。そのために、放射線量など安全性のPR、インセンティブの付与、地元の人との触れ合いなど、リピーターをつくる取組などが大事であるという話がありました。

また、東北六県が一緒になったプロモーション、ルートづくりを進めるべきだ、県同士の連携や情報発信、魅力の絞り込みがまだまだではないかという御意見もありました。

あるいは、広域周遊ルートにおける空の出入り口の明確化。広域連携での役割分担の整理が必要であるという話がありました。

私からは、東北の広域的な観光振興の視点は大変重要なことで、青森・山形・秋田の観光客が、被災地の沿岸部にも行っていただくような観光を目指していただきたいというようなことも申し上げました。また、この会議の前には、石巻市の大川小学校、雄勝町の防災集団移転促進事業や仮設商店街及び複合型宿泊施設のモリウミアスを視察させていただきました。

本日は、東北の観光復興に携わる行政機関が一堂に会し、専門家である委員の方々と交えて議論する貴重な機会であったと考えているところでございます。委員の皆様には、本日の議論や現地での視察を今後の議論や提言の取りまとめに生かしていただくことを期待しております。私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 本日2回目の東北観光アドバイザー会議ということでしたけれ

ども、1回目からの進展や、今回の会議は大臣から見ていかがでしたでしょうか。

(答) 1回目も2回目もそうで、非常に観光に造詣の深い委員の方々ばかりでございますので、どちらも大変いいご意見をいただきましたし、またいい議論ができたというふうに思っています。

特に今回は、東北の各県、あるいはまた東北の観光に携わる方々からの御意見があった。それに対して、いろいろなアドバイスを的確にさせていただいたというふうに思います。どちらかというところ、まだこの部分が足りないのではないかというような意見が委員から多く出たということで、お互いになかなかその意見交換するにおいて若干言いにくいようなことははっきりと言っていたらいいような、大変議論が深まった、これからの提言に大いに役立つ会議だったというふうに思っております。

(問) 意見交換のお話がありましたけれども、大臣の中で印象的な意見であったりとか、何かそんなものはありましたか。

(答) もちろん、これはそれぞれの県で考えていただいております。それぞれの県の立場で、やはり今日はプロモーションをなさいましたけれども、そうではなくて、それも大事でありますけれども、やはり東北六県がもっとこう広域的に、どうやって東北の観光を考えていくかというようなこと。先ほども言いましたけれども、それぞれの役割をやはり明確にして、プロモーションをしていくことによって、さらに東北の観光というものが際立ってくるのではないかとということ。

それから、私とすれば、やはり大変苦労なさっております、特に宮城・岩手・福島は被災されて、まだ復興半ばの、特に福島はまだ原災事故というの面がございますので、厳しいわけにありますけれども、そういったところにそのほかの県から、ぜひその宮城の沿岸部に、岩手の沿岸部あるいは福島の沿岸にも行っていただく、浜通りに行ってくださいというような、広域的に考えた役割、お手伝いと言うんでしょうか、そういったようなところもやっていただくと、私とすれば、東北の復興という意味において大変ありがたいかなというようなこともちょっと申し上げたところでございます。

(問) 今復興のお話出ましたけれども、あと1か月で震災から5年を迎えることになりますが、大臣から見て今後こういった取組だったり、復興庁としてどんなことを重点をおいていかれますか。

(答) まずはやはり住まいということで、集中復興期間をやってきました。これもいよいよピークを迎えているわけにありますけれども、それだけでは復興は終わりません。これから産業だとか、なりわいだとか、あるいは生活だとか、あるいは今日議論になった

観光だとか、そういったものがやっぱり復興して、本当に東北の復興がなったということだと思いますから、新しいステージに入ります。これまでの取組もさらに加速化していく。そしてまた、新しい5年、新しいステージの取組も加速化していくと、そういうことではないかというふうに思います。

(問) 会議冒頭で、東北観光復興元年と今年位置づけるとお話ありましたけれども、観光の復興についてどのように、どのような視点で今後どういうふうに取り組んでいくおつもりでしょうか。

(答) 冒頭にも言いましたけれども、まさにインバウンド2,000万人あるいはその高みを目指しているわけです。しかし、東北にはまだなかなかそういったようなところがその恩恵をこうむっていない。ですから、まずはほかの地域に負けない、東北の観光もほかの地域に負けないようにしていくこと。これはインバウンドに限らず、教育旅行などもそうだと思いますけれども、まずやはりそれを目指していくということだというふうに思います。

(問) 復興庁として、今後の特に被災地でのインバウンド、そして観光復興に向けて具体的な支援策等、何かございますか。

(答) これこそまさにこれから、そのアドバイザー会議などを通じて提言をいただくということになろうかというふうに思いますけれども、先ほど来申し上げておおり、しっかりと東北が一つになって、プロモーションをしていっていただく。そういったときに、もちろん観光庁もそうでありますけれども、復興庁としてもお手伝いをしていくということではないかというふうに思います。

(問) まず具体的に、最初に取り組むべき施策というのはどういったものになるとお考えでしょうか。

(答) それこそ最初に取り組むべき施策というものが、このアドバイザー会議を設置したり、そうした有識者の方から意見をいただいて、じゃあどのようにやっていくかということをもまず道筋をつけていくというのが、私どもの最初の仕事だというふうに思っています。具体的な施策というのは、これからそういったところからの御提言をいただいてやっていくということだというふうに思います。

(以 上)